

低風速域に密集配置可能な小形垂直軸型バタフライ風車

鳥取大学原豊

背 黒

エネルギー情勢

気候変動·地球温暖化対策

【日本政府の目標】 2050年にカーボンニュートラル実現

ロシアのウクライナへの 軍事侵攻(2022.2.24~) →



エネルギー価格高騰 (エネルギー安全保障)



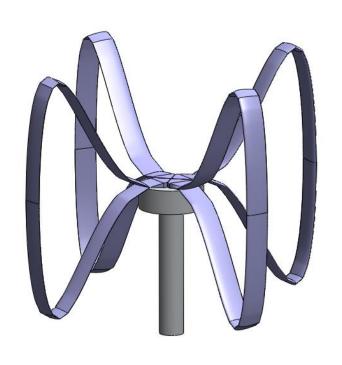
貢献する研究開発

鳥取大学 × 日軽金アクト

10年以上にわたり、低コスト小形化を実現するバタフライ風車開発

バタフライ風車の原型と特徴

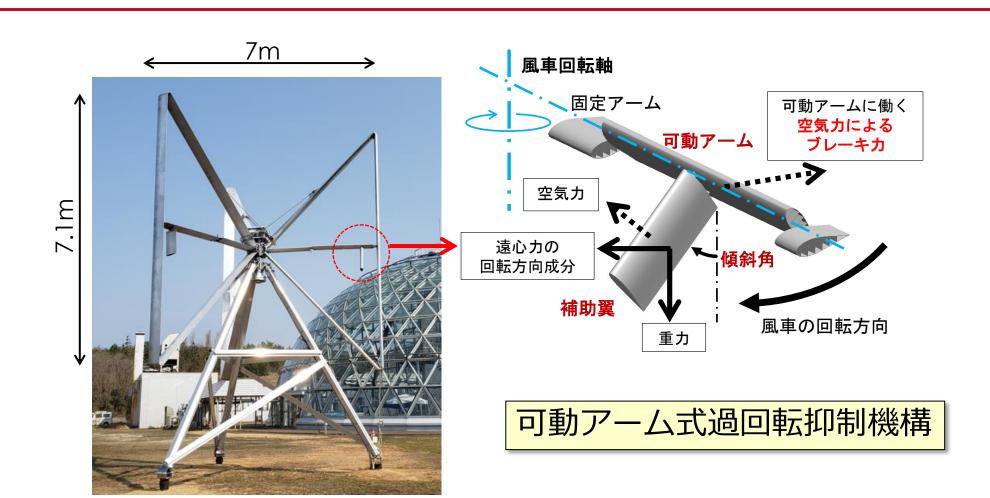




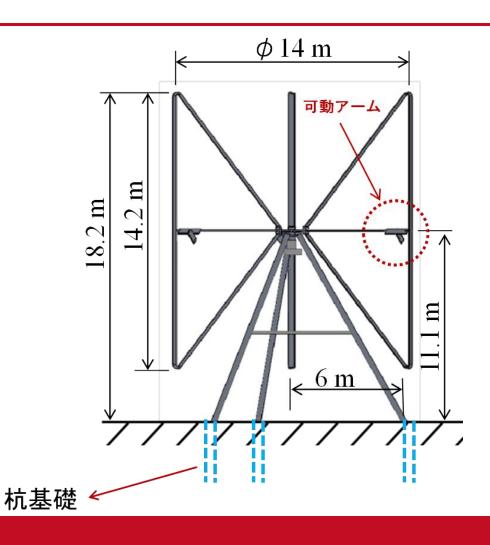
- ・二重翼の効果
 - → 高起動性と高出力の両立
- ・アームレス
 - → 抵抗減少,部品点数削減
- 翼端がない
 - → 翼端損失減少, 騒音低減
- ・重心に発電機を設置
 - → 振動対策に有効

特許第6035545号

可動アーム式 7m プロトタイプ



14m試作1号機を開発中!





14m試作1号機の1つの翼の仮組みと 歪ゲージのキャリブレーション準備

新規性・優位性

- ① バタフライ型で高起動・高出力 → 低風速対応
- ② 可動アーム式過回転抑制 → 大形ブレーキ/ダンプ抵抗不要
- ③ シンプル構造でアルミ押出の多用 → 大量生産で低価格化
- ④ 『大きな風車に小さな発電機』 → 電装系の価格抑制/低風速ターゲット



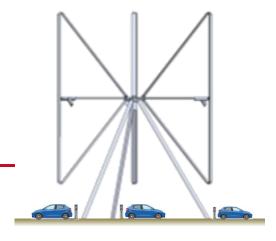
平均風速3.8m/sで年間20,000 k Wh以上の発電の可能性

インパクト

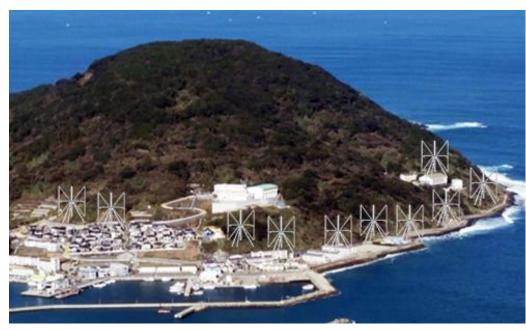
- ●大型風車と同等の発電コストを達成できる小形風車の量産化
- ●低風速発電により、日本全国での設置・発電が可能

応用例

小形バタフライ風車は密集配置を可能にする



EVステーション



離島の電源



密集ウインドファームと太陽光発電のハイブリッド

可動アームの動作の様子(プロトタイプ)



ご清聴ありがとうございました。